

■ 午後の部 (13:00~15:00)

【メッセージカードの作成】
【混色の基本を考える】 担当 佐藤

私たちは、日頃比較的無造作に油絵具の混色をしているが、絵の具には色による混色k
可否や透明・不透明等k
記載がある。したがって
混色の際にはそれなりの留意が必要だ。その概要を略記すると・・・

- ① 色には彩度(鮮やかさ)と明度(明るさ)がある。
- ② 純色(生の色)ほど彩度が高い。
- ③ いいかえれば、混色するほど彩度が落ちる(濁る)。
- ④ 補色とは、赤と緑、黄と紫、青と橙など、色環の反対の位置にある色をいう。最も遠い色味の異質2色の関係をいう。混色すると無彩色(黒みを帯びた灰色)になる。
- ⑤ 混色は混濁するので、3色以内に収めるのが良い。
- ⑥ ただし濁りも色なので、必要に応じて使うことがある。
- ⑦ 混色をすると化学反応を起こすケースがあるので、硫化物系(ポーミロンなど)と鉛化物系(シルバーホワイトなど)の混色にはラベル表示に留意が必要等々。

以上を学習した後、メッセージカードの作成に移った。名刺大の折りたたみ式用紙に、コロジオンで図柄を印刷。
今回の試作品を参考に、展示会の配布作品(枚数適宜)を作成することになった。試作品は、以下の写真を参照。



はんの会 事務局

〒274-0062 船橋市坪井町600-29
安田 彰 Tel・Fax 047-464-6870
ホームページ : www.hannokai.net

はんの会

No.246



表紙絵 源川 良江
2022年4月1日発行



題名 春の陽だまり
(コロジオン原紙で製版)

- ① コロジオン原紙に描き液で、蝶の羽根の一部と花芯を描いて、黄色で刷る。
- ② トレーシングペーパーに貼り替えて、蝶の羽根の一部ををカットし、小さめのタンポでぼかしながら刷る。(赤とオレンジ)
- ③ 版を貼り替え、蝶の下羽根をグレーに、マーガレットの葉と莖を緑の濃淡で刷る。
- ④ 版を版を貼り替え、空の雲の周囲を100番の金網でぼかして描き、雲の無い所を描き液で抜いて、ブルーで刷る。バックの葉は筆で点描して淡緑で刷る。(雲は金網でこすり過ぎたので修正)
- ⑤ 紅しじみとヘーガレットの線を描き、プリントごっこで製版し、位置を合わせ機能で合わせてグレーで印刷する。
- ⑥ 版を貼り替え、描き液で山の地面をこげ茶で、バックの葉を筆で点描して濃い目の緑で刷る。
- ⑦ 版を貼り替え、地面と葉の間の花畑を黄色で刷る。
- ⑧ 版を貼り替え、手前の緑をもう一回点描して刷る。

(5月号の表紙絵は、田中先生です)

4月の学習会について

日時 4月10日(日) 場所 初台区民会館

■ 午前の部 (10:00~12:00)

- 3月表紙絵の制作プロセスと解説 (担当 源川)
- 第36回作品展について

■ 午後の部 (13:00~16:00)

- デッサンについて (担当 小手川)

(持ち物)

- F6クロッキー帳 ○ B4以上の鉛筆又は、木炭鉛筆をお持ちなら優先
- 消しゴム又は練り消し ○ 描きた人物の写真(雑誌の切り抜き、全身が写っているもの、立位、座位は問いません。)

※ クロッキー帳は100円ショップで売っているそうです。

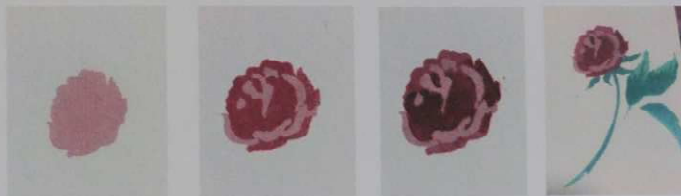
3月の学習会報告

■ 午前の部 (11:00~12:00)

○ 表紙絵3月号の「オマージュ」(コロジオン)の解説(小手川)

この2月に新規オープンした大阪中之島美術館を訪れた際、A・ミュシャやT・ロートレックの絵・版画に惹かれた。そして彼らにオマージュ(賛辞)を捧げたいとの思いが募り、制作したという。従って、全体にミュシャ風のアル・ヌーボー調が漂い、中間色の色味と相まって上品な出来栄となった。

作成手順は前号の説明通りで、まずピンクの花から刷り、順次濃い色を重ねてゆく(写真1・2・3)。ついで葉と枝を淡緑で刷り、濃色を重ねる(写真4)。絵の主版(外枠と花の線描)が全体の雰囲気や決定的な影響を与えるので、その色合いの決定に苦心した(写真5)。最終的には、ムーングレイとし、図柄に沿ったサインと丸点を入れて完成(写真6・7)。



○ 第36回孔版画展の準備について(三文字)

1. 案内ハガキの作成について: 会長が松本氏に確認・依頼する。万一不可能の場合は、会長が適宜印刷屋に依頼する。
2. 作成時間の関係もあるので、開催中に行う実演の曜日と担当はハガキに明記しない。
3. 一筆箋については、一般の印刷屋では難しいだろう。一筆箋が不可能の場合は、次回の学習会で善後策を検討する。
4. 例年の販売用はがきは作成せず、今回は本日午後学習する「メッセージカード」をそれに代える。